

＜研究成果の紹介＞

畦畔雑草「キシウスズメノヒエ」は平坦部の水田に多く分布する

農業研究所 伊賀農業研究室

1. 成果の内容

「キシウスズメノヒエ」や「アシカキ」、「サヤヌカグサ」などのイネ科多年生雑草は、畦畔を発生源として5月から6月頃に盛んに匍匐茎を水田に侵入させ、畦畔管理を難しくする雑草です。農家では「ヨバイヅル」「ヨバイグサ」などと呼ばれ嫌われています。これらの問題となるイネ科多年生雑草は全国で11種があるとされていて、特に「キシウスズメノヒエ」(写真1)は生育力が旺盛であることから、イネへの雑草害が最も大きく問題となっています。発生量が多くて、ひどい場合には匍匐茎がイネをなぎ倒し、収穫できなくなることもあります。

2006年、2008年に、三重県内の水田に発生するイネ科多年生雑草の分布を調査したところ、「キシウスズメノヒエ」の分布には地形との関連があることがわかりました。「キシウスズメノヒエ」は中山間地では分布が認められないか、あっても極わずかでイネへの甚大な被害は認められません。一方で、山間から平坦に向かうほど「キシウスズメノヒエ」の分布は多くなり、特に



写真1 キシウスズメノヒエ

海拔の低い海岸部に近い水田では、多くの水田に分布があるばかりか、発生が甚大な水田も散見されました。これらの地域では、農家が鎌を使って手取り除草をする風景がみられることから、早急に防除技術の普及が必要です。

2. 技術の適用効果と適用範囲

「キシウスズメノヒエ」はシハロホップブチル乳剤(商品名:クリンチャーEW)で比較的簡単に除草することができます。「キシウスズメノヒエ」の分布の特徴をうまく活用すれば、効率的に防除指導ができると思われます。

シハロホップブチル乳剤は移植後20日以降、収穫30日前までにおいて本田内での使用ができます。

(神田 幸英)

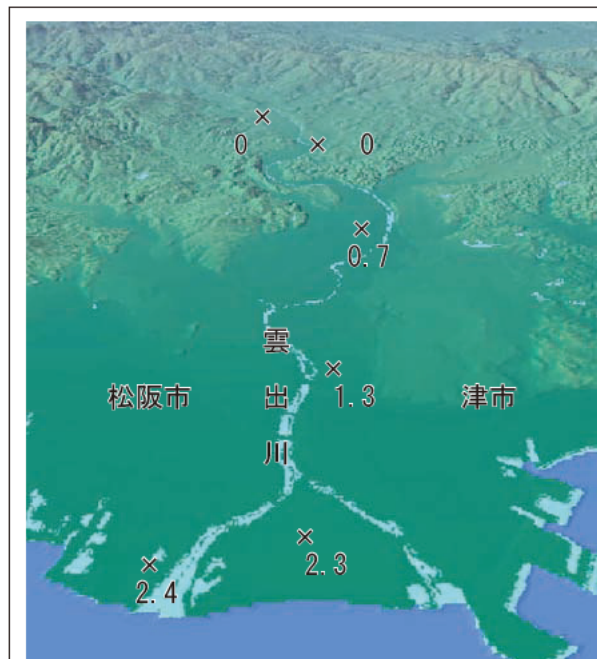


図1 「キシウスズメノヒエ」の地形による分布のちがいの一例(雲出川流域)

注: ×は調査地点。数値は分布の程度を示し、数値が大きいほど分布と発生量が多いことを示す。